

# セミナー参加者の考え方（案）

# 1 各班のテーマ・目的

## I 班 病院としての能力

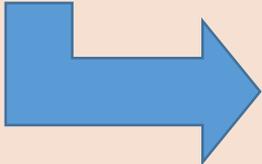
<目的> マーシーの病院としての機能及び対応能力を学習し、日本における病院船機能への課題について議論する

## II 班 災害時の運用方法

<目的> マーシーの災害時の運用方法を学習し、日本における災害時の病院船運用への課題について議論する

## III 班 平時の運用方法

<目的> パシフィック・パートナーシップ (P P) をはじめとするマーシーの年間を通じた活動について学習し、日本における平時の病院船運用への課題について議論する

 各班で取りまとめ

 パワーポイント  
数枚程度

- ・ 6/19 シンポジウムで発表 (20分/班)
- ・ 米軍シンポジストも交えて意見交換

 レポート作成

企画検討会に報告 (7月以降)

## 2 各班の学習、取りまとめの手順（案）

### I 班 病院としての能力

- <手 順> i) 事前に基礎資料等を用いた勉強会を通して、マーシーの保有する各機能、スペック等について、基礎的な知識をあらかじめ習得するとともに、セミナー当日に米側に確認すべき質問事項をとりまとめておく。
- ii) 寄港時の船内見学及び訓練・オペレーション見学、その後の米側アドバイザーとの質疑応答を通じて、マーシーの診察能力、療養環境評価、患者収容動線、専門人材養成方法、船内の備蓄・ライフラインの設備等を整理する。
- iii) マーシーの知見を踏まえ、日本における病院船機能への課題として示唆が得られた点を班内ディスカッションを経て、とりまとめる。

### II 班 災害時の運用方法

- <手 順> i) 事前の基礎資料等を用いた勉強会を通して、マーシーの災害時の運用方法について、基礎的な知識をあらかじめ習得するとともに、セミナー当日に米側に確認すべき質問事項をとりまとめておく。
- ii) 寄港時の船内見学及び訓練・オペレーション見学、その後の米側アドバイザーとの質疑応答を通じて、マーシー船内における災害時の指揮命令系統、災害医療活動全体のコーディネートにおけるマーシーの役割、搜索救助活動をはじめとする他のオペレーションとの連携等について、整理する。
- iii) マーシーの知見を踏まえ、日本における災害時の病院船の運用への課題として示唆が得られた点を班内ディスカッションを経て、とりまとめる。

### III 班 平時の運用方法

- <手 順> i) 事前に基礎資料等を用いた勉強会を通して、マーシーの平時の運用方法について、基礎的な知識をあらかじめ習得するとともに、セミナー当日に米側に確認すべき質問事項をとりまとめておく。
- ii) 寄港時の船内見学及び訓練・オペレーション見学、その後の米側アドバイザーとの質疑応答を通じて、マーシーの年間を通じた活動について、整理する。
- iii) マーシーの知見を踏まえ、日本における平時の病院船の運用への課題として示唆が得られた点を班内ディスカッションを経て、とりまとめる。

### 3 各班の体制割（案）

※人数は目安であり、選定過程で調整する可能性あり

#### I 班 病院としての能力

- <体制> ○班員 17～22名、オブザーバー 4～5名  
○班長 1名  
○副班長 1～2名

#### II 班 災害時の運用方法

- <体制> ○班員 18～23名、オブザーバー 9～10名  
○班長 1名  
○副班長 1～2名

#### III 班 平時の運用方法

- <体制> ○班員 10～17名、オブザーバー 6～7名  
○班長 1名  
○副班長 1～2名

**班員+オブザーバー 合計 60名程度**

※企画委員会の有識者委員については、座長は全体を統括する役割を担うほか、他の委員については、I班からIII班のいずれかに班員として属していただくことはどうか。

※班長は、企画委員会の有識者委員から選定することはどうか。

※企画検討会の行政機関委員は、班員に対して行政上の知見を提供していただく観点から、いずれかの班のオブザーバーとして参加していただくことはどうか。なお、オブザーバーについては、委員以外にも適任者がいれば参加をいただいてはどうか。

#### ■ 班長の主な役割

- ① 学習会の内容について事務局と調整
- ② シンポジウムでの発表に向けた班内取りまとめ
- ③ シンポジウムでの発表、意見交換
- ④ シンポジウムでの意見交換を踏まえた取りまとめ結果を企画検討会に報告（7月以降）

## 4 各班の班員の属性（案）

### I 班 病院としての能力

※人数は目安であり、選定過程で調整する可能性あり

〔属性の考え方〕 医療関係者を主とした構成

〔班員〕 <案> ・ 医療関係学会関係者等 15～20（救急医学会等）  
・ 企画検討会委員

〔オブザーバー〕 <案> 内閣府（防災）1、消防庁1、厚生労働省1、防衛省1

### II 班 災害時の運用方法

〔属性の考え方〕 災害医療関係者（DMAT関係者を含む）、防災関係行政官・研究者、船舶関係有識者を主とした構成

〔班員〕 <案> ・ 医療関係学会関係者等 1～2（集団災害医療学会等）  
・ 東京DMAT及び災害拠点病院関係者 4（日米共同訓練参加者）  
・ 災害対応関係有識者 1～2  
・ 船舶関係有識者 1～2  
・ 防災等研究機関 3～4（人と防災未来センター、防災科学技術研究所、保健医療科学院等）  
・ 実動機関 6～7（消防庁又は東京消防庁（緊急消防援助隊指揮支援部門）、海上保安庁（巡視船いず運用部門）、防衛省（自衛隊医官衛生部門）、厚生労働省DMAT事務局）  
・ 企画検討会委員

〔オブザーバー〕 <案> 内閣官房（事態室）1、内閣府（防災）1、消防庁1、厚生労働省1、国土交通省1、海上保安庁1、防衛省1、東京都1、東京消防庁1

### Ⅲ班 平時の運用方法

※人数は目安であり、選定過程で調整する可能性あり

〔属性の考え方〕 医療関係者、有識者、船舶運営機関関係者、シンクタンク、関係行政官を主とした構成

- 〔班員〕
- 〈案〉
- ・ 医療関係学会関係者 2～3 ※医師の人材育成関係者を含む
  - ・ 防災・医療関係有識者 1～2
  - ・ 船舶運営機関関係者 1～2（海洋開発研究機構（JAMSTEC）等）
  - ・ 診療船関係者 2～3（地方公共団体、運用担当者等）
  - ・ シンクタンク 1～2（医療経営等）
  - ・ 国際協力機構（JICA） 1～2
  - ・ パシフィックパートナーシップ担当官 1～2（防衛省（P P 関係部門））
  - ・ 企画検討会委員
- 〔オブザーバー〕
- 〈案〉 内閣官房（副長官補室） 1、内閣府（防災） 1、外務省 1、厚生労働省 1、防衛省 1、東京都 1

## 5 班員の選定に係る論点

- 企画委員会の有識者委員に班員になっていただき、班長は企画委員会委員から選ぶことでどうか。
- 医療関係者については、関係学会から推薦いただくのがよいと考えているがどうか。その際、どのような学会に依頼するのがよいか。
- 各班に班員候補として追加すべき機関、団体、有識者がいないか、各委員からご推薦いただけないか。
- 各委員からいただいたご推薦等をもとに事務局において班員、班長、副班長候補案を作成し、座長と相談のうえ、事務局から各候補者にご案内させていただく。その結果を次回の企画検討会で報告させていただくことでいかがか。